

南インド・テランガーナ州 緑あざやかな農村で繰り広げられる悲喜劇

スウェーデン国際映画祭
主演男優賞・助演男優賞受賞

フィルムフェアアワードサウス
最優秀賞3部門受賞

コムライヤ爺さんのお葬式

監督：ヴェヌ・イェルダンディ 出演：プリヤダルシ(『インパクト・クラッシュ』)



村の葬式を舞台にしたおかしな人間模様
いがみ合う子供たち、借金まみれの孫息子、个性的すぎる村人たち
口の悪いコムライヤ爺さんが彼らに残したメッセージとは—



配給：インドエイガジャパン

SHIRISH PRESENTS

DIL RAJU
PRODUCTIONS



村の葬式を舞台にしたおかしな人間模様
 いがみ合う子供たち、借金まみれの孫息子、
 個性的すぎる村人たち
 口の悪いコムライヤ爺さんが
 彼らに残したメッセージとは—



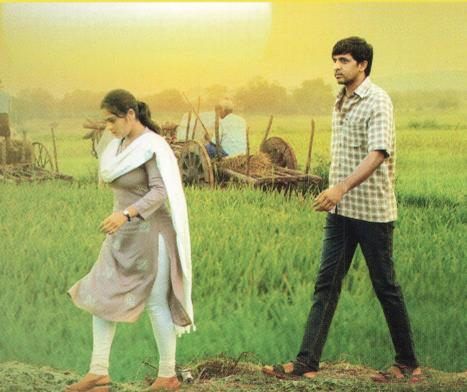
2014年に成立した、インドで最も新しい州であるテランガーナ州。その州都ハイダラーバードはインドでもトップクラスの豊かな映画界であるテルグ語映画の本拠地であるにもかかわらず、複雑な歴史的経緯と、方言の問題から、テランガーナ地方の住人たちはテルグ語映画の表舞台で活躍することが少なかった。そんな中、2014年の州の成立の前後から、テランガーナの文化を映画に取り込もうとする試みが徐々に始まった。それは作中でのテランガーナ方言の採用や、土地に根付いた文化を写実的に描くこと、地域が生んだ偉人に光を当てることなどで、華やかなスター俳優たちや巨大スケールのアクションなどに頼らない地道な歩みだった。

本作『コムライヤ爺さんのお葬式』もそうした試みの一つで、キャスト・スタッフの多くをテランガーナ出身者で固め、ヴェーヌ・イェルダンディ監督の出身地であるラージャンナ・シリシッラ県の緑豊かな風景の中で撮影された。小さな村の奇妙な人々の人間関係、死者の霊との神秘的なコミュニケーションなどを、ビームス・シシローリヨーの手になる美しい音楽が包み込んでゆく。弔問客を前に繰り広げられる伝統芸能ハリカタ、野辺送りに賑やかに随伴する打楽器ティーンマール、死者に語りかける哀哭歌ブッラ・カタなど、本作は様々な民俗音楽が散りばめられた田舎ミュージカルでもあるのだ。



STORY

テランガーナ州ラージャンナ・シリシッラ県コーナラーウベータ村は、州都ハイダラーバードから北に150キロほどのところにあるのどかな農村。そこに住む1954年生まれのコムライヤは口の悪いやもめ男。彼と同居しているのは長男のアイライヤとその妻スワルバ、その息子サーイルだった。サーイルは奇妙なベンチャー・ビジネスを試みては失敗を繰り返している青年で、家族には隠しているが借金まみれ。彼はまもなく婚約式を行うことになっており、相手の持参金を借金返済に当てようと目論んでいる。しかし式の前々日に突然コムライヤが他界してしまう。服喪のため式は延期となり、さらに些細な喧嘩がもとで婚約者とその親族が彼のもとを去り、サーイルは慌てる。彼の叔父・叔母にあたるモギライヤとラクシュミもそれぞれの家族を伴ってやってくる。サーイルは叔母に連れられてやってきた従妹のサンディヤに心を奪われる。コムライヤの告別式と火葬は滞りなく済み、服喪の最終儀礼に当たる、野辺でのカラス（死者の霊や祖霊が宿るとされる）への供養へと進む。しかしそこに至るまでの間に、久しぶりに一堂に会した親族たちのエゴの衝突や旧怨のふり返しなどが噴出し、不穏な空気が高まっていく。



監督：ヴェーヌ・イェルダンディ

出演：プリヤダルシ（『インバクト・クラッシュ』）/カーヴィヤ・カリヤーンラム/コータ・ジャヤラム/アイレーニ・ムラリダル・ガウド/ルーバ・ラクシュミ/マィム・マドゥ/ケーティリ・スターカル・レディ

スタッフ 脚本：ヴェーヌ・イェルダンディほか/撮影：アーチャーリヤ・ヴェーヌ/音楽：ビームス・シシローリヨー/編集：マドゥ/製作：ハルシト・レディ、ハルシタ・レディ/製作会社：ディル・ラージュ・プロダクションズ/

Balagam（原題）/2023年/インド/テルグ語/本国認証U（G相当）/129分/字幕：内海千広 配給：インドエイガジャパン <https://indoeiga.co.jp>



11/15(金)～当館にて公開

キネカ大森

03-3762-6000
https://ttcg.jp/cineka_omori/